ふれ愛キャンプ2019

当家族会がボランティア参加している、森林公園で行われるふれ愛キャンプに、給水係として今年も参加した。

障がい児20名と共に、健常児、ジュニア・学生を含むボランティア200名超が、障がい者と生活を共にするキャンプを通してふれあい、理解を深めるもので、2日目早朝にマイクを持った女子大学生はきめ細かくプログラムの進行を行っていた。

給水係は2日間のキャンプの間、交代で任務をつなぎ、2日目早朝前半は、朗読の会の方とともに3名で、参加者に冷えた飲料を供給した。

主催者の龍ケ崎市社会福祉協議会、同ボランティア連絡協議会は、運営アンケートなどを参考に、今年は初日に地域の園児を招いた縁日も行われたようだ。

少子・高齢化が進む中、善意の輪が年齢・境遇の違いを超えて広がることの意義はます

ますます大きくなり、暑さを乗り越えて参加した各々に様々な気付きが生まれ、共に生きることを考えるきっかけになったのではないかと思った。（K・T）